

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 平成30年10月3日から平成31年3月6日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B16021、B18014、050482	

2 福祉サービス事業者情報（平成31年 1月現在）

事業所名： (施設名) 長野市象山保育園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者氏名) 市長 加藤 久雄 保育・幼稚園課長 中澤 和彦	定員（利用人数）： 95名（87名）
設置主体： 長野市	開設（指定）年月日： 昭和45年9月1日
経営主体： 長野市	
所在地：〒381-1231 長野県長野市松代町松代1421-3	
電話番号： 026-278-2085	FAX番号： 026-278-2085
ホームページアドレス： http://www.city.nagano.nagano.jp/	
職員数	常勤職員： 14名 非常勤職員： 20名
専門職員	(専門職の名称) 名
	・園長 1名 ・給食調理員 7名
	・保育主任 1名 ・バス運転手 2名
	・保育士 21名 ・バス添乗員 2名
施設・設備 の概要	(設備等)
	(屋外遊具)
・乳児室 … 1室 ・ほふく室… 1室 ・保育室 … 4室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 2室 ・鉄棒 ・登り棒 ・滑り台 ・ジャングルジム	

3 理念・基本方針

<p>長野市が目指す子どもの姿 (長野市乳幼児期の教育・保育の指針より)</p> <p>かがやく笑顔で げんきに遊ぶ しなのキッズ</p> <p>安心できる環境の中で、子どもが自分に自信を持ち、遊びや生活を通して 友だち等の人間関係を築いていく生き生きとした子どもを育てます。</p>
--

【教育・保育の基本方針】

- 健康な心と体を育てる
自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、健康で安全な生活を作り出す基礎を培う
- 感じて、考えて、チャレンジする力を育てる
好奇心や探求心を持って人や物と関わり、試行錯誤しながら最後までやり通す力を育てる
- 自信を持ち、自分を好きになる教育・保育の推進
満足感や達成感を得られる体験を通し、自信を得たり認められる嬉しさを感じることで更なる意欲へとつながる教育・保育を進める。
- 人との関わりを大事にする教育・保育の実践
自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりして、人との関わりをもつことに喜びを感じる教育・保育の実践
- 家庭や地域との連携
子どもの心の安定と健やかな成長のため、家庭での子育てを支え、地域における子育て・子育て支援を行います
- 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿った全体的な計画を作成し日々の教育・保育を実施します。

○象山保育園 保育目標

- 見たい 聞きたい 話したい やってみたい
何でも食べて元気な象山の子ども達

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当象山保育園は長野市が直接運営する28園(内休園1園)のうちの一つで、昭和45年9月に開設されて以降、長野市が運営している。

当保育園の前身は旧松代町時代の昭和26年4月に開設された田町保育園と昭和28年5月に開設された寺町保育園の二つの園で、昭和41年7月、その年の10月の長野市、篠ノ井市、松代町など2市3町3ヶ村の昭和の大合併前に田町保育園が改築され、昭和45年9月には寺町保育園が廃止され象山保育園として現在地に開設され、その後、平成9年4月に象山保育園と田町保育園が統廃合され象山保育園となり、平成10年3月には新園舎が現在地に竣工した。

当園のある松代は長野市の東南に位置し、真田十万石の旧跡と寺社仏閣、地震観測所、松代大本営跡地、佐久間象山記念館などの史跡や文化財などが豊富にあり、女優松井須磨子、音楽家の海沼実、草川信の生誕の地でもあり、街中には童謡の歌碑があり、朝・昼・夕には童謡が流れている。

当保育園はその松代市街地南の住宅地にあり、周辺には象山神社や旧横田家住宅、山寺常山邸などがあり、象山山(ぞうざんやま)や公園などの自然環境にも恵まれており、子どもたちの園外保育の選択肢も幅広く、四季を問わず天気の良い日には散歩や遊びに出掛けている。

そうした中、平成28年10月には「信州の豊かな自然環境と地域資源を活用した、屋外を中心とする様々な体験活動を積極的に取り入れる保育・幼児教育」の「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受けて現在3年目に入っている。当保育園のお散歩マップ(自然保育マップ)には松代城址や象山神社、公園、川、小学校、宅幼老所、認知症高齢者グループホームなどがマークされイラストや写真なども貼られており、四季折々の自然や動植物に親しみ、また、地域の人々と挨拶を交わし様々な自然体験や社会体験、生活体験をしている。

地域の人々との交流も盛んに行われており、地域の方の絵本の読み聞かせや素話などが定期的にあ

り、また、GB会(祖父母の会)の方々が子どもたちと一緒にさつま芋の苗を植えたり、草取りなどの手伝いなどをしていただいている。また、当保育園の近くには園の多くの子どもたちが就学する松代小学校があり、「長野乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅱ「育ちをつなぐ」の「幼・保・小の連携」の「小学校との連携の充実」に沿い、年長の子どもたちはその小学校の5年生と交流し、小学校の音楽会、運動会などへの招待を受け様々な体験をし、就学に向けて期待と希望に胸を膨らませている。

現在、当園には0歳児2名・1歳児8名・2歳児4名のいちご組、2歳児11名のもも組、3歳児19名のばなな組、3歳児10名と4歳児10名のぶどう組、4歳児10名と5歳児13名のめろん組の五つのクラスがあり、それぞれの子どもの発達段階に合わせて作成された平成30年度の「全体的な計画(保育課程)」の下、園の目標、「みたい 聞きたい 話したい やってみたい 何でも食べて元気な象山の子ども達」に沿い、同年齢の子どもの均一的な発達の基準ばかりでなく、一人ひとりの発達過程を踏まえ、健康、人間関係、環境、言葉、表現の保育内容の5領域を意識した保育の組み立てにより、子どもが身につける望ましい心情、意欲、態度を育成し、合わせて、子どもの自発的な遊びが深まり、総合的な心身の発達へとつながるようにしている。

当保育園では保護者の仕事と子育ての両立等を応援するため、そのニーズに合わせ多様なサービスを提供しており、長時間保育や一時預かり、障がい児保育、おひさま広場等を実施している。長時間保育は時間外保育を必要とする際に利用するサービスで定期的に利用している子どもが40名前後となっている。また、一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで、当園でも希望に応じて支援することができるようになってきている。障がい児保育は保育を必要とする心身に障がいを持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容になっている。おひさま広場は未就園児と保護者対象に園開放及び子育て相談を行うサービスでいつでも受け入れることができるようになってきている。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ しなのキッズ」及び「子ども・子育て支援事業計画 ～わくわく子育て すくすくこども～」に沿いビジョンを明確にしており、今年度2018年度から2020年度までの中期計画として、2016年に認定を受けた信州型自然保育(信州やまほいく)の充実、福祉サービスの第三者評価の受審、長野市運動プログラム・運動と遊びのプログラムの充実を掲げ前向きに取り組んでいる。当園の今年度の事業計画には重点課題として「保育内容の充実」や「保護者支援」、「安全・安全な保育の実施」など六つが掲げられおり、職員は、「保育所自己評価のための個人自己評価チェック」に基づく課題等を踏まえ、保育園内外の研修等を通じて、それぞれの職務内容に応じた専門性を高めるため、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めている。

5 第三者評価の受審状況

受審回数 (前回の受審時期)	今回が初めて
----------------	--------

6 評価結果総評 (利用者調査結果を含む。)

◇特に良いと思う点

1) 創意工夫による遊びの発展

当保育園の廊下には生花が飾られ、松ぼっくりの雛人形、ほおずきを利用した飾り、ひょうたんのマラカスなど自然を素材とした季節が感じられる制作物があちこちにある。また、家電やミニキッチンなど牛乳パックを利用した手作りおもちゃが保育室には沢山あり、ままごと遊びなどをして楽しく遊ぶことができている。

現在、当園では「足湯」がブームで、未満児が秋の散歩の途中の川に流れていたカラタチの実に興味を示し、拾ってきた実の有効活用について職員が調べ「冬になったら温泉しようね」と冷凍庫に保管し、冬季になり、たらいにカラタチの実とお湯を入れ足湯を用意し、外あそびを終えた冷えた足を温めている。湯の中へはからたちの実の他、みかんの皮なども入れ、匂いや感触も

楽しみ、お湯に漬かりながら絵本などを読んでもらっている。未満児だけでなく幼児たちも「いいな」と興味を持ち実施しており、足湯体験を通しての交流が生まれ、また、日課となり、お昼寝時もぐっすりと眠れている。また、子どもたちが発砲スチロールの箱に土を入れた田んぼで育てたお米を収穫し、玄米にし、それを炒って玄米茶にして香ばしい香りと味を給食の時に全員で味わっている。

夏場にはゴーヤや千成ひょうたんなどをプランターで育て、伸びたツルをアーチ型の支柱に這わせ緑のトンネルを作り、そのトンネルをくぐりながらシャワーを浴びるなど、子ども達の「どんな事をやりたいのか。何をやりたいのか」を聴き、日々、保育を実践する中で、子ども達の表情や仕草、言葉から「もう1回、もう1回」、「楽しかった。またやりたい」等の声を拾い活動に反映している。

新保育所保育指針でも保育の目標を達成するために、保育士等は、幾つかの事項に留意して保育しなければならないとしており、その一つとして子どもが自発的・意欲的に関わられるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすること、特に、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育することとしている。

当保育園では職員間の協力、工夫、働きかけをきっかけに、ままごと遊び、緑のトンネル、足湯など、子どもたちが興味を示す、好きな遊びを見つけてあげながら、それにともなった子どもたちの発想から他の遊びを覚えさせるなど、設定保育で行う遊びを大切にしつつ自由保育で行う遊びでの選択肢を拡げ、異年齢保育も交え、遊びの発展へと繋げている。

2) 豊かな心を育てる自然環境を生かした保育

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針の「取組の方向性 I-1 自然環境を活かした体験活動の充実」でも「命の大切さ、ものの美しさに気付く豊かな感性を育む」、「見て、触れてなど、全身の感覚を使って体験ができる環境を整える」、「信州型自然保育認定園を増やす」の三つを掲げており、当保育園でも生命や自然についての興味や関心を育て、命の大切さ、ものの美しさなどに気づく豊かな感性を育てている。

当保育園では「信州型自然保育(信州やまほいく)」の認定を受けており、当園の2018年度から2020年度までの中期計画の中でも「2016年度に信州やまほいくの認定(認定機関:2016年から2021年)」として掲げその充実のため積極的に取り組んでいる。また、今年度の事業計画の中の重点課題の「保育内容の充実」として「自然を生かした保育を行う」とし、実践している。

当保育園の南西側には象山山(ぞうざんやま)があり、また、西側にも妻女山などの里山が連なり、その裾野には畑が広がっている。当園では混合保育を取り入れているので異年齢で出かけることが多く、文化財や自然環境の中で、園児たちは伸び伸びと交流を深めながら過ごしている。園の西側にある象山神社近くには小川が流れ、また、松代城址公園や青垣公園、稲荷神社、旧武家屋敷なども近くにあり、毎月、自然と関わる活動計画を立て保育に取り入れている。豊かな自然の中へ散歩に出かける機会も多く、土手、神社、公園、川などを巡っている。春にはさつまいも苗をGB会(祖父母の会)の指導を受けながら植え、夏にはその畑の草取りをしたり川でジミ・沢ガニ・ザリガニ・川魚を捕まえ飼育も行い、秋にはどんぐり・松ぼっくり・落ち葉・枝などを採取し、それを園での制作に活かしたり、また、さつま芋ほりやチュウリップの球根を植えたりしている。冬場は雪だるまを作ったり、雪合戦、かまくらづくり、土手でのそり遊びなどを楽しみ、園舎内でコケ玉づくりや芝人形づくりなどもしている。

更に、発砲スチロールの田んぼで稲を栽培したり、畑やプランターでミニトマトやナス、キュウリ、オクラ、ズッキーニ、枝豆、さつま芋などの野菜を栽培し、生長の観察や収穫を体験し、給食へも取り入れ、「食」への関心を高めている。

新しい保育所保育指針でも、小学校教育との連続性を考えるための目安として定められた「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の一つとして「自然との関わり・生命尊重」についてふれており、幼児期の自然との関わり・生命尊重は、保育内容の五領域の「環境」などでも示されているように、保育所の生活において、身近な自然と触れ合う体験を重ねながら、自然への気付きや動植物に対する親しみを深める中で育まれていく。

当保育園の子どもたちは自然の中でたくさん体を動かして十分に楽しみ、多くの発見や体験をし、友達同士の触れ合い、助け合いの心を育て、地域の人々とふれあっている。

3) 地域の人々との交流

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の「基本方針Ⅳ『育ちを支える』家庭・地域との連携」としてその取組の方向性「Ⅳ-2 地域交流活動の充実」を掲げ、「地域の文化に触れ、地域に親しみや愛着が持てるように地域交流を指導計画に位置づけて、活動を推進」・「地域住民が教育・保育活動に参加することで、地域とともに子育て支援を行う教育・保育施設を目指す」と明文化されている。

当保育園では、家族を大切にしようとする気持ちを持つとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人とのさまざまな関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみを持てるようにしている。また、保育園内外のさまざまな環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、公共施設を活用したりして、社会とのつながりなどを意識できるようにしている。

当園のある場所の旧町名は代官町、馬喰町で、昔からの武家屋敷に囲まれており、子育てにも協力的な風土があり、保育に対する関心も高く、祖父母との同居や近くに住んでいる子どももおり、祖父母による送迎も多く、また、行事への協力も得られている。地区のGB会(祖父母の会)の人々等にさつま芋の栽培(苗植えから焼き芋会まで)、どんど焼き、繭玉作りなど、昔からの慣習や行事、伝統を教えていただいている。

また、当園では世代間交流として宅養老所、認知症高齢者グループホームなどの高齢者と交流しており、その事業所やホームに出かけ、季節の歌やリズム遊びなどを披露している。職場体験の中学生、高校生・短大生のボランティアや実習生ともふれ合い、素ばなしや読み聞かせ、楽器演奏のボランティアなどとも交流している。子どもたちは地域の高齢者を始めとした大人たちとのふれあいの中で多くを学び、世代間の交流として毎年度継続しており、「特別保育事業」として市の保育・幼稚園課にも実績を報告している。

更に、子どもたちが小学校の運動会や音楽会へ招待され参加し、松代公民館で行われる美術展、象山神社での雛人形飾り、松代城址で行われる桜まつりなどにも作品を出品している。子どもたちはさまざまな行事に参加することで地域にとけ込み、地域に育てられている。

4) 職員研修の充実

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の「基本方針Ⅴ『育ちを確かにする』職員の力量の向上」としてその取組の方向性「Ⅴ-1 専門的な知識、技術に関わる研修の充実」・「Ⅴ-2 職場研修の充実」を掲げ、「必要な研修の内容と回数を明確にし、その体系化を図る」・「様々な研修によって得た知識や技術を用いて指導力の向上を図る」・「具体的な事例研修を重ね、各園の実践研究体制の強化を図る」と明記し、当保育園でもそれらを実践している。

長野市公立保育園としての研修体系があり、一般研修、派遣研修、職場外研修に区分され、新人職員研修はもちろん、2年目・5年目・10年目研修、保育士・主任・園長研修、未満児・障害児研修、給食部会・看護師会研修等、経験や習熟度、職種に合わせた研修が公立保育園全体で実施されている。また、経験値などに合わせたOJTも行われている。新人職員には指導担当者がつき、ステップノートによる指導も行っている。

当保育園としての「職場研修実施計画書」もあり、少なくとも月1回、定例の職員会の場を使い実施しており、「松代の歴史を知る」、「自然保育における危機管理」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」などの研修が組み込まれ、職員は保育の現場に生かしている。また、外部研修に関しても、市担当部署からの情報提供に加え、各自情報を収集し主体的に参加している。園として全員が公平に参加できるように、参加者の選定を行ったり、スキルに合わせた自主研修の参加を勧めたりしている。

更に、長野市では公立保育園の事例検討発表の一環として毎年度末に「一人一人に寄り添う保育」という冊子を発行しており、各園での取り組みの中の成功事例を1件ずつ載せている。当保育園でも、事例として上げるまでに様々な検討の場や研修の機会を設けており、その過程で指示されたことをするのではなく自分たちでたどり着いた考えを全員で共有し、職員間の意思統一を図ることもできており、研修及び教育的な効果についても計り知れないものがある。

◇特に改善する必要があると思う点

1) 保育スペースの拡充

当保育園では子どもの数の関係から2歳児同一年齢のクラスの保育を絵本の部屋を利用している。水道やトイレが室内にないため職員はおむつ替えや手洗いを多目的トイレにマットを敷いたり、衝立をして工夫している。職員の人数、活動内容によっては難しいことも考えられ、着替えをする時にはできるだけ目隠しのある場所を用意したり、機嫌が悪い時は、保育者と二人きりで向き合うコーナーへ導くなど、身近なところから、子どもたちの「見られたくない気持ち」を守ることが必要ではないかと思われる。

保育の環境には子どもや保育士等の人的な環境、施設や遊具などの物的環境、更に、自然や社会の事象などがあるとされており、こうした人、物、場などが相互に関連し合い子どもたちの豊かな生活に繋がるものと思われる。

また、子どもたちが保育園で健やかに過ごすためには「環境構成」が重要で、友達と一緒に大きな声で歌ったり踊ったりできる「動」の環境と、一人で落ち着いて過ごすことができる「静」の環境の二つの場が保育室には必要とされ、保育室内でこの静と動の場を取り入れる工夫が必要であるといわれている。

未満児の増加とともに、今後、職員の創意と工夫だけでは補えない生活環境の不便さが出てくることも考えられ、子どもの活動が豊かに展開されるように環境を整える意味からも、関係部署と相談しながら着替え場所やトイレトレーニングがスムーズに行えるようなスペースの拡充を期待したい。

2) クラス編成についての更なる配慮

当保育園ではクラス分けが3歳児については同一年齢クラスと4歳児と過ごすクラスに分かれている。また、4歳児についても年長児と過ごすクラスと年少児と過ごすクラスがある。基本的に同年齢同士の横のつながりを主とした活動と異年齢の子どもたちでの縦の活動を、時間を分けて実施している。

異年齢保育を「人生の縦の軸」とし、年齢別保育を「人生の横の軸」としている考えもあり、それぞれの保育のメリットとともにリスクが伴うこともあることから、子どもに合わせた対応を考える必要があるものと思われる。

子どもにとって遊びの時間は、自分の力を試す、協調性を学ぶ、身体能力の鍛錬など多くの意義を持つものであり、同年齢同士の場合は比較的自由に遊べるが、異年齢グループで遊ぶ場合は身体能力・発言内容に制限がかかるケースも考えられる。年齢別保育は発達に応じた活動を取り入れることにより、同年齢で助け合い協力し、また、競い合うといった、家庭ではできない経験ができる点、その年齢で身につけるべき躰や基本的な習慣を同じ年齢の子ども達と共に学ぶことができるというメリットがあるといわれている。

子どもの数と職員配置から難しいと思われるが、保護者からも学年での同一の保育の保障を望む声もあるので、異年齢の良い点を取り入れながら、発達段階に合わせて程よく、平等に、クラス分けが出来るように配慮されることを期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

(平成31年3月5日記載)

象山保育園初めての第三者外部評価の受審により、これまでの保育を客観的に見直すことが出来ました。自園だけでは把握できない保育園の強みと弱みを見出し、今後の保育の課題を示唆していただき、心より感謝申し上げます。

また、保護者の皆様には利用者アンケートで温かい励ましのお言葉、より良い保育のために改善を促すお言葉をいただきました。いただいたご意見は真摯に受け止め、子どもの最善の利益のために職員が一丸となってより良い保育の方法を模索していきたいと思っております。

○評価結果総評の「特に良いと思う点」

- 1 創意工夫による遊びの発展
- 2 豊かな心を育てる自然環境を生かした保育
- 3 地域の人々との交流
- 4 職員研修の充実

今後も、地域の豊かな自然や地域の方々との交流を通し、子どもが主体的に遊べるような遊びの環境を整えていこうと思っております。

○評価結果総評の「特に改善する必要があると思う点」

- 1 保育スペースの拡充
- 2 クラス編成についての更なる配慮

未満児入所の需要は、今後も高まることが予想されますが、限られたスペースの中ではありますが、子ども達が安心して過ごせるような環境づくりに努めてまいります。

このように第三者外部評価受審を通して、職員が子どものために最善の保育方法を模索し、自主的に学ぶことが出来たことが一番の収穫です。今後も子どもの育ちや成長のために、振り返りを通して、「子どもを語る」集団作りを目指してまいります。